

北京には日本の居留民も公使館もあります。他の七カ国(英・米・独・伊・仏・露・奥)の国々は日本に対し「あなたの国が一番清国に近いのだから大部隊を派遣して欲しい」と要請しました。八カ国の総兵力二万八千人のうち、半数以上の一万八千人を日本は出兵したのです。その総司令官はシベリアを単独横断して勇名をとどろかせた福島安正少将(のち大将)であります。日本軍は天津に上陸し、各国軍の先頭に立って北京に入城します。

北京の八カ国の公使館は、幸いに三方城壁に囲まれて、一箇所に集中していました。この八カ国の公使館員及び居留民はあらゆる武器をかき集めて防戦したのですが、これを指揮したのは会津若松出身の柴五郎中佐(のち大将)であります。この柴中佐の勇敢にして、適切な指揮によって籠城六十日間をもち耐えたのであります。八カ国公使館は六十二日目に連合軍によって解放されるのです。この時、公使を義和団に殺害されているドイツ軍は、紫禁城に遁入した義和団約二千名を砲撃すべく、紫禁城を見下ろす北側の丘に布陣しました。福島司令官の通訳川島浪速は「待って下さい。紫禁城は人類の文化財です。私が必ず城内に立籠るシナ兵を降伏させますから、紫禁城の砲撃は止めて下さい。」とドイツ軍を説得したのです。川島浪速は単身紫禁城に乗り込み、得意の中国語で二千名の義和団を説得し、見事に降伏させました。

この時の日本軍の軍紀の厳正ぶりは列国の賞賛の的になりました。先年のアロー号事件の時、英・仏連合軍は勇名な圓明園という清朝の離宮を目茶苦茶に掠奪しました。それに比べて日本軍は、軍紀肅清で勇敢であって、ことに紫禁城を救出した川島浪速の勇氣と度量に惚れ込んだ清朝の王族肅親王は、川島と義兄弟の契りを結び、川島を警務学堂(警察官養成学校)の校長に迎え、しかも自分の第七王女を川島の養女として嫁がせるのです。これが後の川島芳子、「男装の麗人」とか「東洋のマタハリ」とか言われた勇名な川島芳子であります。

この時八カ国と清朝との講和条約により、賠償金のほか居留民保護のための駐兵権が、日米英仏等に認められるのです。後年、日支事変のきっかけとなった蘆溝橋事件の時、日本軍が北支に駐留していたのは、この時の条約に基づいたものです。